Special message 次世代に伝えたい友好と絆

文明のクロスロード

漫画家 **森　薫** 氏

中央アジアの5ヵ国がある地域は古来、大陸交易の中心地でした。

ありとあらゆるものがここに集まり、ありとあらゆるものがここからほかの地域へと運ばれて行きました。交易路はのちの時代にシルクロードと呼ばれ、現在ではユネスコの世界遺産にも登録されています。

中央アジアに多種多様な物が集まることは、この地域の工芸品の豊かさにもあらわれています。刺繍布や織物、絨毯、陶器や彫金、木工品、宝石や貴金属を使ったアクセサリーなど。工芸品の文様や形にはそれぞれに意味がこめられています。幸運や繁栄を願ったその文様からは中央アジアの人たちの生活文化や想いをうかがい知ることが出来ます。

これから旅行してみようと思う方は布やお皿など何かひとつ、お土産として購入してみるのはいかがでしょうか。

森薫氏が描く中央アジアの人々

Profile ［プロフィール］

1978年東京生まれ。漫画家。「乙嫁（花嫁）」をテーマに19世紀半ばの中央アジア地域を描いた『乙嫁語り』を漫画誌ハルタ（KADOKAWA）にて連載中。マンガ大賞2014を受賞。主な作品に、2005年、第9回文化庁メディア芸術祭マンガ部門優秀賞を受賞した『エマ』や『シャーリー』シリーズなどがある。

サマルカンド　青の都

ウズベキスタン観光大使
女優、歌手 **前田 敦子** 氏

「旅のおわり、世界のはじまり」という日本とウズベキスタンの合作映画に出演させていただいたことをきっかけに、ウズベキスタン観光大使に就任しました。

ウズベキスタンでの撮影はとても楽しく、現地のスタッフの方々はみなさんとても明るくてすぐに仲良くなることができ、撮影で訪れた街の人たちも本当にいい人たちで、言葉が通じなくてもこの国なら生きていけると思いました。

街のなかでも印象的なのは、シルクロードの中心ともいわれるサマルカンドです。青と白を基調にした建物など、景色がすばらしく、どこで写真を撮ってもインスタ映えします。細かなデザインが施されたシルバーのアクセサリーや、魔除けといった様々な思いが刺繍に込められたスザニ、シルクなど、素敵なお土産もたくさんあり、みなさんも気に入ると思います。映画に出てくる中央アジアの炊き込みご飯「プロフ」もとてもおいしいですよ。

映画やこのパンフレットをきっかけに、ウズベキスタンに興味を持っていただき、両国の人々の交流がより深まることを願っています。

©2019「旅のおわり世界のはじまり」製作委員会／UZBEKKINO

Profile ［プロフィール］

1991年生まれ。女優、歌手。2012年にAKB48を卒業。2019年4月、ウズベキスタン共和国の観光大使に就任。同年8月の第72回ロカルノ国際映画祭に「旅のおわり世界のはじまり」がクロージング作品として上映された。

私の母国ジョージア ―世界最古の文化、伝統、歴史―

力士 **栃ノ心 剛史** 氏

私の母国であるジョージアは、アジアとヨーロッパを結ぶ地政学上重要な位置にあります。それ故、歴史上大国の侵攻を受け続けましたが、ジョージア人は自らの力で国を守り、世界最古の文化、伝統や歴史を守ってきました。

ジョージアはとてもユニークな国です。雪山も、すばらしい海岸もあり、黒海のビーチで日光浴をして、数時間移動すれば山でスキーも楽しめます。

337年に国教化を行った世界最古のキリスト教国の一つで、各地には非常に古い教会や修道院が数多く残っています。私たちの言語と文字は他の言語や文字と全く異なります。文学や音楽で多くの名作を生み出し、スポーツ分野では、特にレスリングや柔道が強く、多くのオリンピック金メダリストを輩出しています。また、ジョージアは日本で開催されたラグビー・ワールドカップ2019にも出場しました。

ワインや料理も大きな誇りです。多くの科学者や専門家が世界最古のワイン生産国であると認め、その独自の製法による「クヴェヴリ・ワイン」は約8000年の歴史があります。独特の化学組成や香りを持ち、2013年にユネスコで世界無形文化遺産に登録されました。

まだまだ語り尽くせませんが、是非世界一のおもてなし国ジョージアに遊びにきてください。

Profile ［プロフィール］

1987年生まれ。ジョージア・ムツヘタ出身。春日野部屋所属。最高位は大関（2020年3月現在）。本名はレヴァニ・ゴルガゼ。得意技は右四つ、寄り、上手投げ。

Web Information

各国・地域情勢〈欧州〉

https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/europe.html

国別の詳しい情報が掲載されています。

渡航関連情報

https://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/index.html

海外旅行の前には「海外安全ホームページ」や「世界の医療事情」等で現地事情をご確認下さい。

Twitter
中央アジアとゆかいな仲間たち

https://twitter.com/CentralAsiaplsJ

写真提供：内閣広報室、JICA、flickr。
表示されていない写真の著作権は外務省に帰属します。

http://www.mofa.go.jp/mofaj/

外務省　〒100-8919　東京都千代田区霞が関2-2-1　TEL 03-3580-3311（代）

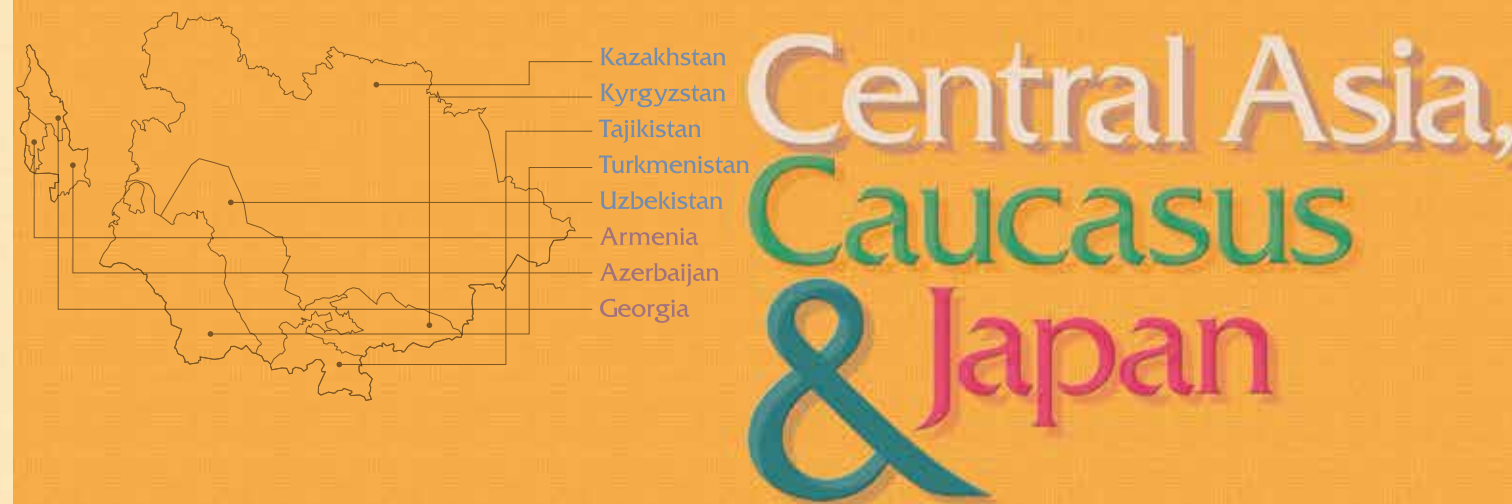
編集：欧州局中央アジア・コーカサス室　発行：国内広報室

2020.3

中央アジア・コーカサスと日本

さらに深化したパートナーシップに向けて

Central Asia, Caucasus & Japan

外務省

Country Profile

中央アジア・コーカサス諸国 の横顔

※各国の▭の中は、各言語によるあいさつ(「こんにちは」)の言葉です。

ヨーロッパとアジアが出会う場所

中央アジア・コーカサス諸国は、広大なユーラシア大陸のほぼ中央部に位置し、古くはヨーロッパとアジアを結ぶシルクロードの拠点として繁栄しました。この道を通じて古代より物資の移動、文化交流が盛んに行われました。ソ連から独立して以降新たな国づくりに励むこれらの国々では、日本に対する関心も高く、今、様々な面で交流や関係の強化が行われています。

Caucasus

アゼルバイジャン共和国 Republic of Azerbaijan

ノーベル兄弟が油田開発に成功した有数の資源国

- 首　都● バクー
- 民　族● アゼルバイジャン系(91.6%)、レズギン系(2.0%)、ロシア系(1.3%)、アルメニア系(1.3%)、タリシュ系(0.3%)
- 言　語● 公用語はアゼルバイジャン語　**Salam əleyküm!** [サラーム・アレイクム]
- 宗　教● 主としてイスラム教シーア派

アルメニア共和国 Republic of Armenia

世界で初めてキリスト教を国教化

- 首　都● エレバン
- 民　族● アルメニア系(98.1%)、ヤズディ系(1.1%)、ロシア系(0.3%)、アッシリア系(0.1%)、クルド系(0.1%)、その他(0.3%)
- 言　語● 公用語はアルメニア語、ロシア語も広く通用　**Բարև Ձեզ!** [バレヴ・ゼス]
- 宗　教● 主としてキリスト教(東方諸教会系のアルメニア教会)

ジョージア Georgia

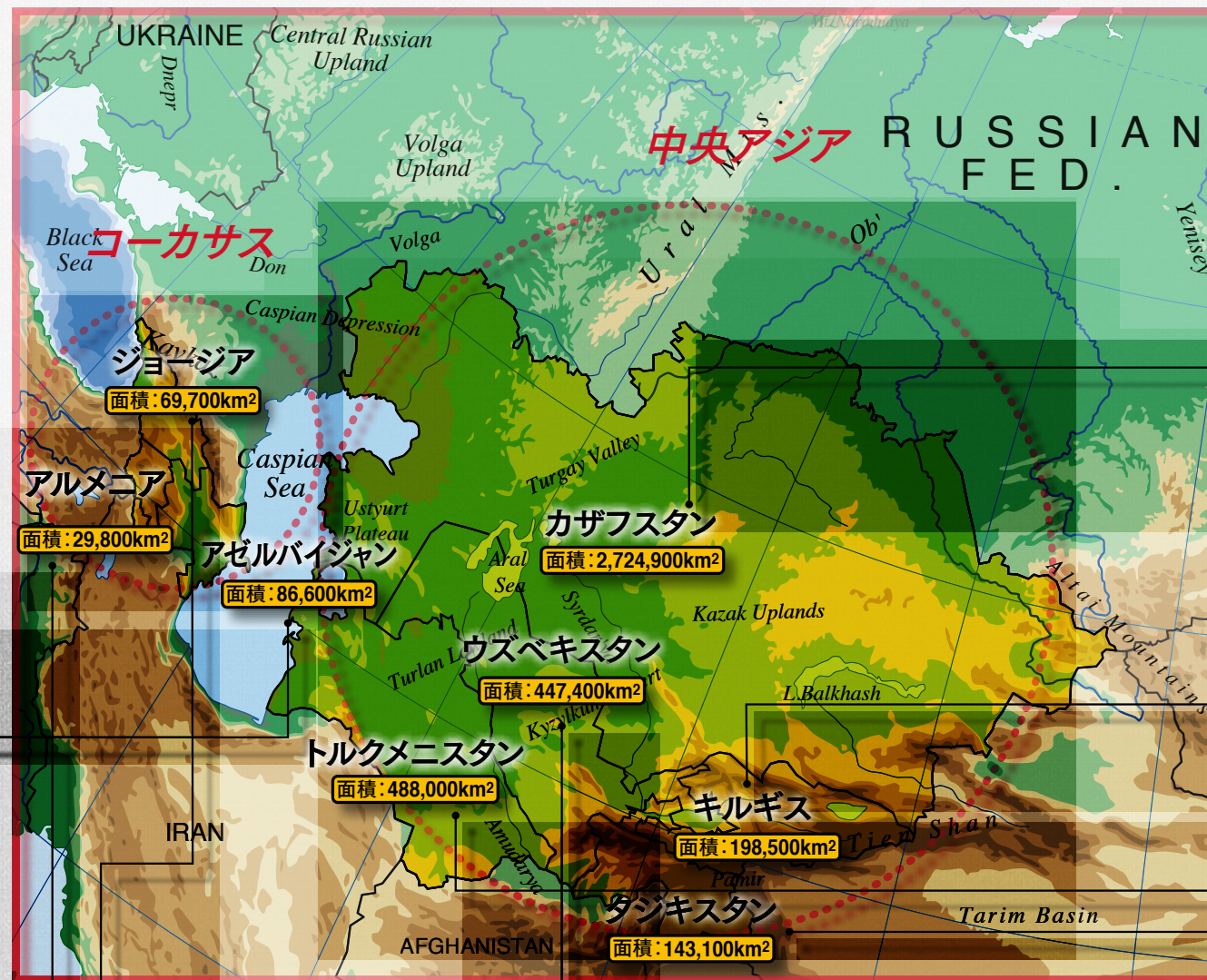
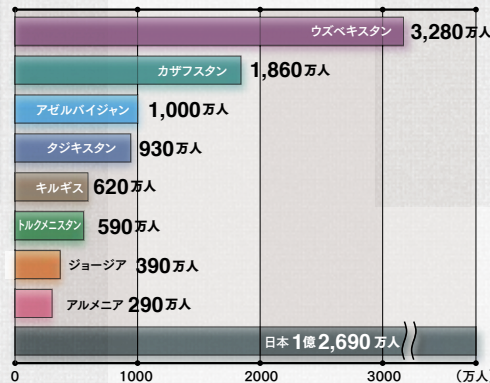
日本の和食と共にジョージアの伝統的ワイン製法がユネスコ無形文化遺産に登録

- 首　都● トビリシ
- 民　族● ジョージア系(86.8%)、アゼルバイジャン系(6.2%)、アルメニア系(4.5%)、ロシア系(0.7%)、オセチア系(0.4%)
- 言　語● 公用語はジョージア語　**გამარჯობათ!** [ガマルジョバット]
- 宗　教● 主としてキリスト教(ジョージア正教)

中央アジア / コーカサス

- ジョージア　面積：69,700km²
- アルメニア　面積：29,800km²
- アゼルバイジャン　面積：86,600km²
- カザフスタン　面積：2,724,900km²
- ウズベキスタン　面積：447,400km²
- トルクメニスタン　面積：488,000km²
- キルギス　面積：198,500km²
- タジキスタン　面積：143,100km²
- 日本　面積：377,900km²

人口比較(2019年、国連人口基金)

国	人口
ウズベキスタン	3,280万人
カザフスタン	1,860万人
アゼルバイジャン	1,000万人
タジキスタン	930万人
キルギス	620万人
トルクメニスタン	590万人
ジョージア	390万人
アルメニア	290万人
日本	1億2,690万人

一人当たりGDP比較(2018年、国際通貨基金)

カザフスタン共和国 Republic of Kazakhstan

日本人宇宙飛行士も同国の基地から国際宇宙ステーションに旅立つ

- 首　都● ヌルスルタン
- 民　族● カザフ系(67.47%)、ロシア系(19.76%)、ウズベク系(3.18%)、ウクライナ系(1.53%)、ウイグル系(1.46%)、タタール系(1.11%)、ドイツ系(0.99%)、その他(4.5%)
- 言　語● 国家語はカザフ語、公用語はロシア語　**Сәлеметсіз бе!** [サレメットシズベ]
- 宗　教● 主としてイスラム教スンニ派

キルギス共和国 Kyrgyz Republic

日本人と似た外見。中央アジアの真珠と言われるイシククリ湖には三蔵法師も立ち寄ったといわれる

- 首　都● ビシュケク
- 民　族● キルギス系(73.3%)、ウズベク系(14.7%)、ロシア系(5.6%)、ドウガン系(1.1%)、タジク系(0.9%)、ウイグル系(0.9%)、タジク系(0.9%)、その他タタール系、ウクライナ系など
- 言　語● 国家語はキルギス語、公用語はロシア語　**Саламатсызбы!** [サラマトスズブ]
- 宗　教● 主としてイスラム教スンニ派

タジキスタン共和国 Republic of Tajikistan

風光明媚な山岳と豊かな水の国

- 首　都● ドゥシャンベ
- 民　族● タジク系(84.3%)、ウズベク系(12.2%)、キルギス系(0.8%)、ロシア系(0.5%)、その他(2.2%)
- 言　語● 公用語はタジク語、ロシア語も広く通用　**Ассалому алейкум!** [アッサローム・アレイクム]
- 宗　教● 主としてイスラム教スンニ派

トルクメニスタン Turkmenistan

大理石造りの「白亜の首都」がある永世中立国

- 首　都● アシガバット
- 民　族● トルクメン系(76.7%)、ウズベク系(9.2%)、ロシア系(6.7%)、カザフ系(2.0%)など
- 言　語● 公用語はトルクメン語、ロシア語も広く通用　**Salam!** [サラム]
- 宗　教● 主としてイスラム教スンニ派

ウズベキスタン共和国 Republic of Uzbekistan

古都サマルカンドはティムール帝国の首都としても有名な観光地

- 首　都● タシケント
- 民　族● ウズベク系(83.8%)、タジク系(4.8%)、カザフ系(2.5%)、ロシア系(2.3%)
- 言　語● 国家語はウズベク語、ロシア語も広く通用　**Assalomu alaykum!** [アッサローム・アライクム]
- 宗　教● 主としてイスラム教スンニ派

Central Asia

Partnership “開かれ、安定し、自立的な発展”に向けて

対中央アジア・コーカサス外交の重要性

地政学的重要性

ロシア、中国、アフガニスタン、イランなどの国々に隣接し、アジアとヨーロッパ、ロシアと中東を結ぶ十字路に当たるこの地域の情勢は、ユーラシア大陸全体の平和と安定に大きく影響するため、周辺諸国の情勢も含め、この地域の動向は日本はもとより国際社会全体の大きな関心事項となっています。

豊富なエネルギー資源

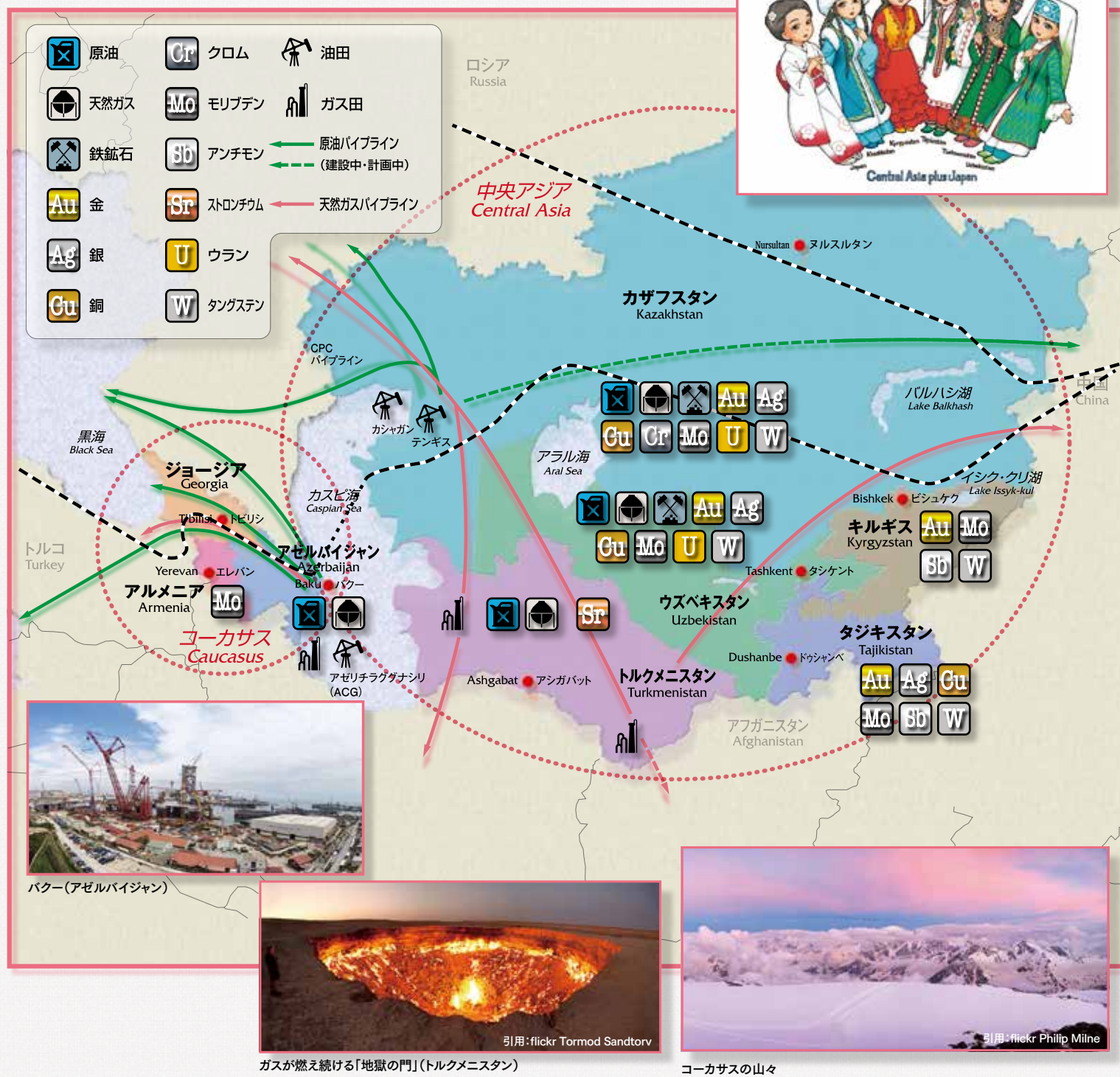
この地域では、石油、天然ガスなどのエネルギー資源のほか、ウラン、レアメタルなどの様々な鉱物資源が埋蔵されており、採掘を行っています。特に、カスピ海周辺地域から欧州・ロシア・中国に向けてパイプラインが設置されており、重要なエネルギー輸送ルートに位置していることから、この地域の安定と繁栄は、国際エネルギー安全保障の観点からも大変重要です。

新しいパートナーシップに向けて

日本は、中央アジア・コーカサス諸国の“開かれ、安定し、自立的な発展”を支援しつつ、二国間関係を強化しています。特に、2015年10月に安倍総理が日本の総理大臣として初めて中央アジア5か国を歴訪し、2018年9月に河野外務大臣（当時）が日本の外務大臣として初めてコーカサス3か国を歴訪したことを受け、中央アジア・コーカサス諸国との関係は新たなステージに入りました。

日・ウズベキスタン首脳会談（内閣広報室）

近年の首脳レベルの往来

年月	内容
2015年3月	ベルディムハメドフ・トルクメニスタン大統領が訪日
2015年10月	安倍内閣総理大臣が中央アジア5か国を訪問
2016年11月	ナザルバエフ・カザフスタン大統領（当時）が訪日
2018年10月	ラフモン・タジキスタン大統領が訪日
2019年10月	ナザルバエフ・カザフスタン初代大統領、ジェエンベコフ・キルギス大統領、ベルディムハメドフ・トルクメニスタン大統領、サルキシャン・アルメニア大統領、ズラビシヴィリ・ジョージア大統領の他、ウズベキスタン及びタジキスタンの上院議長、アゼルバイジャン国会議長が訪日（即位の礼）
2019年12月	ミルジヨーエフ・ウズベキスタン大統領が訪日

「中央アジア＋日本」対話イメージキャラクター 森薫氏（漫画家、巻末参照）製作

バクー（アゼルバイジャン）

ガスが燃え続ける「地獄の門」（トルクメニスタン）

コーカサスの山々

「中央アジア＋日本」対話

日本は、中央アジアの地域内協力を促進することなどを目的に2004年に「中央アジア＋日本」対話を立ち上げました。

設立から15年以上が経ち、近年は対話に留まらない、より実践的な協力に重点を置いています。

2019年5月

「中央アジア＋日本」対話・第7回外相会合

中央アジアの「開かれ、安定し、自立的な発展」を支える「触媒」として地域に関与していくという日本の対中央アジア外交の基本方針を改めて発信しました。

また、法の支配、自由で開かれた国際秩序の遵守の必要性を強調するとともに、安保理改革の重要性を再確認しました。

「中央アジア＋日本」対話・第7回外相会合

2018年9月

「コーカサス・イニシアティブ」

河野大臣（当時）は、2018年9月に日本の外務大臣として初めてアルメニアとジョージアを、19年ぶりにアゼルバイジャンを訪問しました。コーカサス3か国訪問の際に、日本は対コーカサス地域外交の考え方と具体的な協力方針を「コーカサス・イニシアティブ」として発表しました。これは、コーカサス地域を❶アジア、欧州、中東をつなぐゲートウェイの潜在性、及び❷国際社会の平和・安定に直結する戦略的重要性を備える地域として位置づけ、以下の2本の協力の柱を示したものです。

＜協力の柱＞

Ⅰ.「国造り」を担う「人造り」支援（人材育成）

Ⅱ.「魅力あるコーカサス」造りの支援（インフラ、ビジネス環境整備）

日本との外交関係

日本と中央アジア・コーカサス地域の8か国は2022年に外交関係樹立30周年を迎えます。

ウズベキスタン

- 日本大使館開設：1993年
- 在京ウズベキスタン大使館開設：1996年

2001年に両国間の定期直行便が開設されて以来、多くの日本人観光客がサマルカンドやブハラといったシルクロードゆかりの地を訪れています。第二次大戦後、タシケントに抑留された日本人が建設に従事したナボイ劇場は、1966年の大地震の際に、周りの建物が全て倒壊した中でも倒壊しなかったとして、日本人の仕事の正確さが賞賛の的となりました。

カザフスタン

- 日本大使館開設：1993年
- 在京カザフスタン大使館開設：1996年

天然資源輸出を原動力とした経済成長を背景に、エネルギー・製造業等の分野で日本企業の進出が進んでいます。また、日本とカザフスタンは核兵器のない世界の実現に向けて共同で取り組んでいます。2015年9月、両国は包括的核実験禁止条約（CTBT）発効促進会議の共同議長国に就任したほか、2016年11月、訪日中のナザルバエフ大統領が広島を訪問し、原爆死没者慰霊碑に献花しました。

キルギス

- 日本大使館開設：2003年
- 在京キルギス大使館開設：2004年

キルギス人は非常に親日的で、顔立ちが日本人と似ている人が多く、新生児のお尻などに蒙古斑が出るのも日本人と同じ。中央アジアの真珠と称される保養地イシククリ湖は、玄奘三蔵も立ち寄り、湖底にシルクロード遺跡が沈んでいるとされる湖として、日本人観光客も訪れています。2012年からその湖畔で開催されているシルクロード国際マラソンには、毎年日本や海外からマラソン愛好家が参加しています。

タジキスタン

- 日本大使館開設：2002年
- 在京タジキスタン大使館開設：2007年

タジキスタンはソ連崩壊後、中央アジアで唯一、内戦（1992～97年）に陥りました。現地の国連ミッションに派遣された秋野豊氏が1998年に犠牲となりました。日本はタジキスタンの復興を支えるとともに、現在まで開発支援を続けています。内戦から20年が経った現在では、アニメなどに代表される日本文化を楽しむ若者も増えています。タジキスタンの伝統武道グシュティンギリは日本の柔道と似ており、柔道や空手はタジキスタンで人気の高いスポーツとなっています。

トルクメニスタン

- 日本大使館開設：2005年
- 在京トルクメニスタン大使館開設：2013年

教育重視の政策を打ち出したベルディムハメドフ大統領の決定により、2007年9月、初めて現地の大学に日本語学科が開設され、現在では日本人講師による授業が行われています。京王線府中競馬正門前駅（東京都）に立つ黄金の馬像「アハルテケ」のモデルと言われる「汗血馬」の原産地です。また、近年、日本企業の協力により天然ガス加工分野で複数の大型プラントが完工しています。

アゼルバイジャン

- 日本大使館開設：2000年
- 在京アゼルバイジャン大使館開設：2013年

1546年に世界最古の石油井による採掘が行われ、20世紀初頭には世界の石油の生産量の半分を占めていた資源大国で、日本企業もカスピ海の油田開発やパイプライン事業に参画しています。柔道、レスリングなどが盛んで、オリンピック等で日本人選手と対戦する姿を見ることもあります。また、ソ連のスパイだったゾルゲや、有名なチェロ奏者であるロストロポーヴィチの出身国でもあります。

アルメニア

- 日本大使館開設：2015年
- 在京アルメニア大使館開設：2010年

紀元前より王国を建国し、世界で最も早くキリスト教を国教化した歴史豊かな国であり、残存する多くのユニークな教会建築を目的として日本人観光客が増えています。日本と同じように地震が多いことから防災分野が二国間協力の柱の一つとなっています。2011年の東日本大震災に際しては、アルメニアから義援金の提供のほか、大統領等も出席した追悼のミサやチャリティーコンサートが実施されました。

ジョージア

- 日本大使館開設：2009年
- 在京ジョージア大使館開設：2007年

2015年、日本における国名呼称を「グルジア」から「ジョージア」に変更しました。ジョージア人には長寿者が多く、その理由と考えられているヨーグルトは「グルジアヨーグルト」「カスピ海ヨーグルト」として日本でも注目されています。また、最古のワインとして知られているジョージアワインにも近年関心が高まっています。2019年現在、2名のジョージア人力士が活躍中で、相撲を通じた日本との交流も盛んです。

Economic Cooperation 経済協力関係

8か国の安定と経済発展を日本が力強くバックアップ

日本の協力・支援が各国の国づくりと友好関係の発展に着実な成果をあげています。

日本の取組

中央アジア・コーカサス地域の発展と安定は、ユーラシア地域全体の発展と安定にとっても大きな意義を有しています。日本は、旧ソ連時代の計画経済からの移行を支援し、経済発展に向けたインフラ整備、市場経済化に向けた人材育成、保健医療を含む社会分野など多彩な分野で支援を行っています。また、共通の課題を抱えるこの地域の国々が協力し合うことが大切との考えから、日本は国境管理、テロ・麻薬対策、防災、運輸物流、農業、観光などの分野で実践的協力を進め、地域内協力の促進を支援しています。

ここでは日本が行っている多様な支援の一部を御紹介します。

開発協力、ODAとは

開発協力とは、「開発途上地域の開発を主たる目的とする政府及び政府関係機関による国際協力活動」のことで、そのための公的資金をODA（Official Development Assistance(政府開発援助)）といいます。政府又は政府の実施機関はODAによって、平和構築やガバナンス、基本的人権の推進、人道支援等を含む開発途上国の「開発」のため、開発途上国又は国際機関に対し、資金（贈与・貸付等）・技術提供を行います。

日本による中央アジア・コーカサス地域への援助累計額

2017年度まで（単位：百万ドル）

国名	贈与			有償資金協力	合計
	無償資金協力	技術協力	計		
ウズベキスタン	214.95	206.16	421.11	1,008.95	1,430.06
カザフスタン	51.74	152.85	204.59	462.19	666.77
キルギス	215.08	192.31	407.39	250.39	657.78
タジキスタン	265.09	80.27	345.36	-	345.36
トルクメニスタン	5.47	14.13	19.60	13.80	33.40
アゼルバイジャン	86.59	38.82	125.41	730.98	856.40
アルメニア	65.22	41.93	107.15	269.80	376.94
ジョージア	98.54	25.06	123.60	222.83	346.43
中央アジア・コーカサス地域合計	1,019.66	764.64	1,784.30	3,894.63	5,678.93

中央アジア・コーカサス地域に対するDAC諸国のODA実績

2016年（支出総額／単位：百万米ドル、出典：OECD／DAC）

DAC：OECD開発援助委員会

国境管理　テロ・麻薬対策

「中央アジアにおける薬物・犯罪に対する国境連絡事務所設置及び越境協力強化計画」（無償資金協力、国際機関連携）

ウズベキスタン、キルギス、タジキスタン、カザフスタン

中央アジア諸国は、アフガニスタンからロシア・欧州に向けた麻薬、武器の密輸ルートとなっており、国境管理能力の強化が地域の重要な課題となっています。

この協力は、国連薬物犯罪事務所(UNODC)を通じて、中央アジア諸国において、国境連絡事務所の新設及び機材整備並びに治安機関職員の能力強化等を実施することにより、中央アジア諸国の国境管理、麻薬対策の強化を行うものです。この協力を通じて、中央アジア諸国の平和と安定に寄与するとともに、中央アジア域内協力の推進に貢献することが期待されます。

来日歓迎イベントの様子

日本人材開発センター卒業生組織との企業説明会

人材育成

新しい国造りのための人材育成を支援

日本は、中央アジア・コーカサス諸国に対して、これまで1万人以上の研修員の受入れ、3千人以上の専門家の派遣をはじめ、若手行政官の日本留学プロジェクトである人材育成奨学計画や、日本人材開発センターを通じたビジネス人材育成等、新しい国造りに必要な人材の育成を支援してきています。

国造りのための人材育成支援「人材育成奨学計画」「日本センタービジネスプロジェクト」（技術協力）（無償資金協力）

「人材育成奨学計画」は、「留学生受入10万人計画」の下、1999年度に新設された若手行政官の日本留学事業で、帰国後、留学生が得た知識を自国に還元し、日本との友好関係強化に貢献することを目指しています。これまで中央アジア地域からは約600人を留学生として受け入れてきました。留学経験者の中には、現在指導的地位で活躍している例も増えてきています。

また、市場経済の基盤を担う民間企業の人材育成の観点から、ウズベキスタン、キルギス、カザフスタンでは、日本人材開発センターを通じたビジネス人材育成を支援してきており、実践的なビジネススキル・ノウハウを提供しています。今後は、日本の中小企業と現地企業との関係促進にも役立つような取組を行っていく予定です。

インフラ整備（電力）

「シマル・ガス火力複合発電所第2号機建設計画」（有償資金協力）　アゼルバイジャン

アゼルバイジャンの首都バクーがあるアプシェロン半島地域は、人口と電力需要が集中する同国最大の電力需要地です。この協力は、安定的な電力供給力の拡充及び効率性向上を図り、電力不足の緩和及び同国経済の持続的成長に寄与することを目的としてガス火力複合発電設備(定格出力400MW)及び関連送電施設の建設を支援したものです。また、天然ガスを効率的に使用することで、地球温暖化の原因となる二酸化炭素、大気汚染物質である窒素、硫黄酸化物の排出量の抑制及び単位燃料当たりの発電電力量の増加が期待されています。令和元年9月に行われた開所式典には、アリエフ大統領と山田賢司外務大臣政務官（当時）が出席しました。

シマル・ガス火力複合発電所第2号機遠景

アリエフ大統領、山田政務官による中央管制室での運転開始の様子

「コンバインドサイクル発電運用保守トレーニングセンター整備プロジェクト」（技術協力）　ウズベキスタン

ウズベキスタンでは、限りある資源である天然ガスを有効に活用するため、老朽化したソ連製の発電所から、エネルギー変換効率の良い日本製のガスタービンを採用した火力発電所への切替えを進めています。これらの発電所では天然ガスを燃焼させ、1300℃以上の高温ガスでタービンを高速で回して発電するため、安全・安定的に運転するためには高度な技術と適切な維持管理が必要です。この協力では、これらの運転・維持管理を担う技術者を養成するためのトレーニングセンターの整備を支援し、実習用機材の供与や研修カリキュラムを策定して技術指導を行いました。研修を受けた技術者たちが、今日もウズベキスタンの安定的な電力供給を支えます。

保守点検について研修を受ける技術者たち

円借款で建設したナボイ火力発電所

インフラ整備（運輸）

「東西ハイウェイ整備計画」（有償資金協力）　ジョージア

ジョージアの運輸システムは、隣接国と接続する道路と鉄道による陸上輸送に加え、黒海沿岸の港を中心とする海上輸送及び空路から構成されます。ジョージアは、欧州と中央アジアを最短距離で結ぶルート上に位置し、カスピ海産石油・ガスのパイプラインの経由地として、また地域物流の中継基地として重要性を高めています。この協力では、ヨーロッパとアジアを結ぶ重要な国際物流網を構成する東西ハイウェイのゼスタフォニ～クタイシ～サムトレディア間の道路の整備を支援しています。これにより、同国の輸送力を増強し、地域経済の発展に寄与することが期待されています。

整備済区間の様子

建設工事の様子

Economic Cooperation 経済協力関係

基礎社会サービス(防災)

「消防機材整備計画」(無償資金協力) アルメニア

アルメニアでは自然災害が頻発し、地方における開発を妨げる要因となっているため、災害対策が優先課題となっています。特に地方部では、焼畑農業に起因する山火事が頻発していますが、坂道が多く高低差が大きい地域では消火活動が難しく、都市向けの消化活動に適した機材が不足しています。また、同国が保有している消防機材の多くは老朽化や機能低下が著しく、安全上の欠陥を抱えているため、迅速な消火活動に支障を来し、被害拡大につながるケースが生じています。

この協力では、同国における災害対策の優先地域(ロリ、シラク、シュニク州)に消防車両・機材の整備を行うことにより、同国の消防活動の改善を図り、防災対策の強化に寄与することが期待されています。

供与式典の様子

本事業を記念して発行された切手

「アシガバット市地域における地震モニタリングシステム改善プロジェクト」(技術協力) トルクメニスタン

トルクメニスタンは造山運動の影響を受ける地震リスクの高い地域で、度々大地震が発生しています。特に首都アシガバット市周辺は、1948年の地震で壊滅的な被害を受けました。一方、同国の地震観測施設は老朽化しており、地震防災のために必要な精度の高い地震情報の迅速な取得が困難な状況です。この協力では、同市及び周辺地域において、地震観測ネットワークの整備と地震動メカニズム解析のためのシステム構築、地盤調査等による地震リスク評価の能力向上を支援します。これにより、同地域の地震観測・解析体制の強化を図り、防災計画の策定や地震防災施策の促進に寄与します。

地盤調査のための試掘の様子

観測点での現地調査

Tea Break

日本人建築家・黒川紀章氏のカザフスタン首都設計

1997年にカザフスタンの首都がアルマティから北部アスタナ(カザフ語で「首都」の意味。現在はヌルスルタンに改名)に遷されました。アスタナ建設に際しては、日本人建築家・故黒川紀章氏が新首都設計国際コンペで優勝し、国際協力機構(JICA)の支援により同氏のマスタープラン(基本設計)に従って首都建設が進められ、現在では未来都市のような風景が広がっています。2005年には黒川氏設計によるアスタナ空港新ターミナルビルもオープンしています。

基礎社会サービス(保健)

「災害・被ばく医療(長期研修)」(技術協力) カザフスタン

カザフスタンでは旧ソ連時代に繰り返し行われた核実験により、水や土壌の汚染や周辺住民の健康への影響等の放射線被害を受けました。日本は2000年代、広島や長崎における被爆者医療の経験を生かし、カザフスタンに対し、住民の検診やその後の診断体制の確立に向けた技術移転等の支援を行い、地域医療体制の改善に貢献しました。2018年度からは新たに、医療従事者や放射線被ばくに関するルール作りに取り組む行政官の育成のため、留学事業を開始しています。この協力により、災害・被ばく医療科学への理解や、放射線災害に対する医療現場や行政での迅速な対応の促進が期待されます。

大学の先生方とJICA留学生

実習でのディスカッションの様子

基礎社会サービス(給水)

「ハトロン州ピアンジ県給水改善計画」(無償資金協力) タジキスタン

タジキスタンは水資源が豊富な国ですが、住民の安全な水へのアクセスは未だ限られており、その中でもハトロン州ピアンジ県の状況は極端に悪く、旧ソ連時代に建設された古い給水システムや衛生的に安全とは言えない浅井戸、かんがい用水路の水などが利用されてきました。

この協力では、給水設備の改修・新設・拡張等のための支援を行いました。これにより、約4,800戸の家庭で、24時間いつでも蛇口をひねれば安全な水が得られるようになりました。人々の衛生状況が改善されるとともに、児童・女性の水汲み労働の軽減に寄与しました。

事業実施前は水路の水を利用

事業実施後は各戸で蛇口が利用可能に

建設された給水塔

農業・ビジネス振興

「『一村一品』プロジェクト」(技術協力) キルギス

大分県発祥の一村一品運動は、地域資源を活かして特産品を育てることにより、地域やコミュニティの活性化を目指す取組です。キルギスはソ連崩壊後、地方では仕事がなくなり、貧困問題が深刻化していました。また、村落部では女性の地位が低く、家庭の用事以外で女性が出かける機会はほとんどありませんでした。キルギスでの一村一品の取組は、商品化の可能性の高い羊毛や野生の果実類等を多く生産するイシククリ湖周辺地域から始まり、2017年からその活動をキルギス全土に広げています。小さな地域で始まった取組ですが、今ではキルギス各地の人々の手で地域の特産品を利用したブランド商品が作られ、一村一品の活動の輪を広げています。

プロジェクトの取組によって生まれた各種製品

地域住民手作りのフェルトのロバ人形

Cultural Topics 文化・社会探訪

World Heritage【世界遺産】

古都サマルカンド
（2001、文化遺産）
（ウズベキスタン）

紀元前からオアシス都市として栄えた古都サマルカンドは、抜けるような青空とティムール帝国時代（14～15世紀）に築かれた青色タイルに彩られたモスク（イスラム寺院）により、別名「青の都」と呼ばれています。重厚な3つの建築物に囲まれた現在のレギスタン広場の姿は、17世紀に形づくられました。

クニヤ・ウルゲンチ
（2005、文化遺産）
（トルクメニスタン）

クニヤ・ウルゲンチはトルクメニスタンの北西部、アムダリヤ川の南側に位置し、12世紀にはホラズム・シャー朝の首都として発展しました。旧市街には11～16世紀の一連の建築物が残されており、モスク、隊商宿の門、要塞、霊廟、高さ60mのミナレットなどがあります。

引用：flickr Dave

サラズムの遺跡
（2010、文化遺産）
（タジキスタン）

紀元前4000年から3000年代の末にかけて、中央アジアで人類が定住生活を発達させたことを示す考古遺跡です。同地域における都市形成の初期発展を示しており、居住民がトルクメニスタンを含む中央アジアの大草原からイラン高原、インダス流域、遙かインド洋に及ぶ人々と交流を行っていたことが伺えます。

引用：flickr Harry Marmot

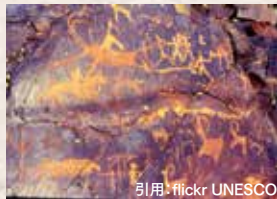
タムガリの考古的景観にある岩絵群
（2004、文化遺産）
（カザフスタン）

アルマティの北西約180kmに位置するタムガリ渓谷には、紀元前14世紀頃から20世紀初頭までに描かれた5000点にのぼる岩絵（ペトログリフ）が残されています。これらは中央アジアの遊牧民の社会組織や儀式形態を示すものとなっています。また、青銅器時代から現代に至る膨大な数の墳墓も発見されています。

引用：flickr UNESCO

シルクロード：長安-天山回廊の交易路網
（2014、文化遺産）
（カザフスタン、キルギス、中国共有）

ユーラシア大陸を横断するシルクロードの遺跡群のうち、カザフスタン、キルギス、中国の3か国33遺産により構成されています。宮殿跡、交易拠点、石窟寺院や要塞跡などが含まれ、シルクロードが紀元前2世紀から16世紀にかけて、様々な文化を結び、交易、宗教、芸術など広範囲にわたる交流を担ったことを示しています。

引用：flickr Maureen Barlin

西天山
（2016、自然遺産）
（ウズベキスタン、カザフスタン、キルギス共有）

ウズベキスタン、カザフスタン、キルギスの3か国、7つの自然保護区から構成されます。世界最大の山脈のひとつである天山山脈の西側に位置しており、標高は高い所では4,503mにも及び、多種多様な動植物が見られます。特に植物の多様性に優れ、多くの栽培品種の原種が生育しています。また、猛禽類やユキヒョウなどの希少種が多く生息しています。

引用：flickr Evgeni Zotov

シェキの歴史地区とハーンの宮殿
（2019、文化遺産）
（アゼルバイジャン）

大コーカサス山脈の麓に位置するシェキは、アゼルバイジャンで一番美しい古都と言われています。交易の要衝として栄え、絹の産地としても知られています。石と煉瓦で作られた家々や、シルクロードを通る隊商のためのキャラバンサライ（隊商宿）、寄木細工とステンドグラスで飾られた窓や扉が美しいハーンの宮殿等が見どころです。

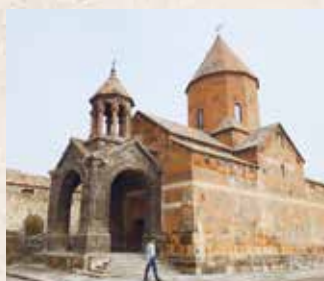
引用：flickr Maureen Barlin

エチミアジンの大聖堂と教会群及びズヴァルトノツの古代遺跡
（2000、文化遺産）
（アルメニア）

アルメニアは301年、世界で初めてキリスト教を国教と定め、エチミアジンに大聖堂を建設しました。大聖堂と教会、ズヴァルトノツの古代遺跡は、アルメニア風の中央ドームや十字廊が特徴的であり、この地方の建築と芸術の発展に大きな影響を及ぼしました。

アッパー・スヴァネティ
（1996、文化遺産）
（ジョージア）

コーカサス山脈に囲まれたアッパー・スヴァネティ地域では、中世風の村落や街並みが残る見事な山岳風景が見られます。住居及び侵略者に対する防衛拠点として用いられた中世風の民家が、今なお200戸以上残る村落もあります。

引用：flickr orientalizing

Souvenirs【お土産】

ドライフルーツ・ナッツ

中央アジア諸国は日当たりがよく、果物がしっかりと甘いことに加え、それらを保存のために乾燥させたドライフルーツも有名です。アプリコットやブドウ、さらには珍しいメロンのドライフルーツなどが作られています。ドライメロンは和菓子にも似た味で、中央アジアの緑茶に合います。また、お土産としても重宝されています。

しばしばドライフルーツとセットでお土産にされているのが、アーモンド、ピスタチオ、クルミなどの様々なナッツ類。塩や砂糖で味付けしたものがあります。

ウズベキスタンのお土産

食器

地域によって色や模様に特徴があり、作り手によっても柄が異なります。特にウズベキスタンの町リシタンでは1000年も前から伝統的な方法で、鮮やかな青が印象的な食器を作っています。

どんなに暑くてもお客様へのおもてなしに紅茶を振る舞うのが一般的なので、旅行中に一度は茶器でお茶をふるまわれることでしょう。

ウズベキスタンの茶器

金属工芸

カザフスタンやウズベキスタン、トルクメニスタンは天然資源に恵まれています。ターコイズなどの宝石を使ったアクセサリーが各地で売られています。

ウズベキスタンのブハラでは、幸福をもたらすといわれているコウノトリをモチーフにした銀のハサミが特に日本人観光客に人気です。

コウノトリのはさみ

絨毯

伝統的には、果物や植物を染料とした羊毛・シルクの絨毯が作られています。大小様々なサイズがあり、模様や用途も多岐にわたります。素材の糸の太さや織り込む力の強さにより作業時間や値段が異なります。作成には何年もかかるものもあります が、その丈夫さは一生もの、何十年ももつと言われています。

トルクメニスタンの絨毯

布製品（スザニ・アトラス・シルク）

ウズベキスタンのスザニは細やかな刺繍がほどこされた布のことで、カバンやポーチ、クッション、スマートフォンケースなど、多様な製品が売られています。絹で作られた鮮やかで特徴的な模様のアトラスは、フェルガナ盆地で生産されています。キルギスでは羊毛フェルトが有名で、キルギスで生産されたフェルト製のコースターや小物入れ、ロバなどの人形は日本でも購入できます。

トルクメニスタンでは既婚女性が髪を巻いて円筒型の帽子に収め、その上から頭をシルクスカーフで覆う独特の風習があります。

スザニのポーチなど

はちみつ

産地や花によって風味や香り、色や粘度、透明度が違います。野バラや向日葵、菩提樹や蕎麦など様々な花から採られたものがあります。キルギスのエスパルセット（マメ科の植物）の花から採られた白いはちみつは粘度が高く、さっぱりとした味が特徴です。トルクメニスタンのカラクム砂漠で採られたはちみつは濃厚な味や香りが特徴で、紅茶に入れるとフルーツティーのような香りが楽しめます。ぜひ、お気に入りのはちみつを見つけてみてください。

キルギスのホワイトハニー

Food【食べ物】

プロフ

油で炒めたニンジンやタマネギ、羊肉を具に使ったスパイシーな中央アジア風の炊き込みご飯です。家庭や市場でもよく作られていますが、結婚式などのお祝いの席には欠かせない伝統料理です。

シャシリク

コーカサスやトルコのケバブが起源と言われているバーベキュー料理。牛、羊、鶏、豚、魚などの肉を、刻んだニンニク、タマネギと各種スパイスで調理したワイン（または酢）に漬け込んでから、炭火やオーブンで串焼きにします。屋台でファストフード的に売られている光景がよく見られます。

ハチャプリ

ジョージア人が愛する国民食で"ハチョ（ハチャ）"はフレッシュチーズ、"プリ"はパンを意味します。文字通りチーズを包んで焼いた平たいパンであり、街のいたるところで売られています。円盤状や生卵とバターをたっぷりのせたボート型など、地方によって姿形が異なるジョージアの定番料理です。

キャビア

チョウザメの卵の塩漬けであるキャビアは、フォアグラ、トリュフとともに世界三大珍味の一つに数えられ、伝統的にカスピ海はその一大産地でした。かつては、比較的安価な養殖物も出回っていましたが、現在は極めて貴重な高級品となっています。

ラグマン

中央アジアで広く食されている麺料理。讃岐うどんを思わせるコシの強い手延べ麺を、たっぷりのトマトペーストや羊肉と季節の野菜、唐辛子などで煮込んだスープでいただきます。スープのないギュロラグマンや焼きうどんに似たボソラグマンもあります。

ジョージアワイン

ジョージアはワイン発祥の地としてそのワイン造りの歴史は8000年前まで遡るとされています。土中に埋めた甕「クヴェヴリ」で醸造する伝統製法は2013年にユネスコの世界遺産にも登録されました。日本の固有品種である甲州ブドウのルーツはジョージアの土着品種という研究もあります。